

新技術名：ナシ害虫に対する新規薬剤の防除効果（昭和63年～平成元年）  
（オリオン水和剤40のシンクイムシ類防除効果）

⑥・参

研究機関名 果樹試験場天王分場  
担当者 加藤作美・田口辰雄  
深谷雅子・森田 泉

## I 新技術の解説

### (1) 要 旨

#### ○ねらい

シンクイムシ類に対するオリオン水和剤40の防除効果を検討し実用化を図る。

#### ○経過と方法

- ① 昭和63年および平成元年にシンクイムシの産卵後にオリオン水和剤40の1000倍液を散布し、殺卵効果を検討した。
- ② 放飼試験：昭和63年および平成元年に長十郎9～10年生樹(鉢植)を網室に搬入し、モモシンクイガの人工飼育成虫を放飼し産卵させた。産卵を確認後すぐに供試薬剤を小型噴霧器で十分量散布した。
- ③ 圃場試験：平成元年に、長十郎31年生樹を供試し、1区1樹2反復の規模で7月中旬から8月上旬にわたり約10日間隔で3回、供試薬剤を動力噴霧機により十分量散布した。
- ④ 調査方法：収穫期に果実の食入被害の有無を調査した。

#### ○技術の要旨

- ① オリオン水和剤40の1000倍液は放飼試験および圃場試験ともに食入被害が少なく、対照薬剤のスミチオン水和剤1000倍と同等あるいは優る殺卵効果が認められた。
- ② 葉や果実に薬害の発生は認められなかった。
- ③ オリオン水和剤40はナシの主要害虫であるシンクイムシ類の防除剤として、平成7年度の防除基準に採用した。

### (2) もたらされる効果

シンクイムシ類の他、ハマキムシやアブラムシにも効果があり、総合殺虫剤として高い効果が得られる。またカーバメート系殺虫剤で有機リン剤とは作用性が異なるので、有機リン剤抵抗性害虫にも有効である。

### (3) 普及対象範囲

県内のナシ栽培地域

### (4) 普及上の留意事項

- ① 石灰硫黄合剤、ボルドー液、ジチオカーバメート系剤、ホセチル剤及び葉面散布肥料との混用は避ける。
- ② 劇物、魚毒性B類は、収穫前14日、使用回数5回以内。

### (5) 発表文献等

## II 具体的なデータ等

表ー1 オリオン水和剤40のシンクイムシに対する防除効果  
(放飼試験：昭和63年)

供試薬剤	希釈倍数	供試果数	食入果数	被害果率
オリオン水和剤40	1000	39	0	0%
スミチオン水和剤	1000	31	0	0
無散布	—	25	17	73.9

表ー2 オリオン水和剤40のシンクイムシに対する防除効果  
(放飼試験：平成元年)

供試薬剤	希釈倍数	供試果数	食入果数	被害果率
オリオン水和剤40	1000	27	1	3.7%
スミチオン水和剤	1000	41	0	0
無散布	—	36	9	25.0

表ー3 オリオン水和剤40のシンクイムシに対する防除効果  
(圃場試験：平成元年)

供試薬剤	希釈倍数	供試果数	食入果数	被害果率
オリオン水和剤40	1000	446	0	0%
スミチオン水和剤	1000	1184	15	1.3
無散布	—	226	21	9.3

発行年月	9506	キーワード	253
基礎分類	35	キーワード	192
作目名	36	キーワード	